

## 平成 29 年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 岡崎中 学校)

### (1)「確かな学力」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>資質・能力（仮：二十一世紀型能力）を育成するために、対話的・主体的で深い学びを実現するための具体的な授業改善を研究する。</p>	
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・対話的・主体的で深い学びを取り入れた授業の工夫に関する研究指定に沿った研究活動</li><li>・関心・意欲・態度を高めるために、知識・理解の意義付け・意味づけを重視した授業改善（毎時の学習の意義付けの工夫）</li><li>・宿題の日常的な提供</li><li>・思考・判断・表現を取り入れ、家庭学習の質を高めるための課題作り</li><li>・すべての教育活動と資質・能力との関連づけ</li><li>・SSH研究指定による理科教育・探究活動の充実</li></ul>	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習確認プログラムでの、数学・理科の回答率の向上</li><li>・教師への意識アンケート</li><li>・研究授業での授業目標内容，研究協議による振り返り</li><li>・教科主任会での取り上げ回数と内容の検証</li></ul>	
<p>各種指標結果（1回目）</p> <p>この数年の学習確認プログラムや全国調査の結果をみていると、入学当初の成績に比べ、2年・3年と学年を重ねるに連れ成績が下降していく傾向が見られたが、本年度は2年・3年共にますますの成績を維持できている。しかし、生徒質問紙やアンケートを見る限り、相変わらず家庭学習の時間や予復習の定着等には課題がある。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>一昨年まで、各種調査結果の分析やその内容の校内での周知が不十分であったと考えている。客観的な本校の学力向上についての結果を踏まえ、委員会等の研究指定を積極的に受け入れたり、公開授業等により教科を越えて学力向上について研修したことにより、指導者の意識向上が図れているものとする。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>教科主任会の定期開催による教科間の連携はある程度できているが、資質・能力の育成に関わるカリキュラムマネジメントはまだ実現できていない。資質・能力の育成に資するカリキュラムマネジメントとはどのようなものなのかについても研修していく必要があると考える。</p> <p>今後も継続して、新たな資質・能力観に沿った学習指導とはどのようなものなのかについて研究・研修を重ねたい。</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学力調査等の結果や学力向上策等について、学校運営協議会理事の方々は好意的にご理解くださり、この結果を継続できるように励ましの言葉をいただいている。</p> <p>学校運営協議会企画推進委員（学習）の方々の支援により、日常的に「みらスタ」を行っていることも重要な取り組みの一つである。</p> <p>今後も継続していきたい。</p>	
	評価日 10月13日	評価者 学校運営協議会理事会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>昨年までの本校の実態として、学年が進むにつれ学習確認プログラムの指数が下がっていく傾向にあった。しかし、まだまだ十分とは言えないながらも、2・3年生の指数がある程度保持できるようになってきた。ただし、これも教科により差がある。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>一昨年度まで、指標にまったくこだわらない体質が多く教師に見受けられたが、研修などを行い、徐々に指導者の意識も高まり、数値の改善につながってきたものとみられる。</p> <p>ただし、授業者により差もあり、未だ古いタイプの授業を行っている者もあり、教科により差が広がってきた傾向がある。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学力向上のねらいとして資質・能力の育成があるにも関わらず、どうしても知識・技能面に焦点をあてた分析が行いがちなところがあり、授業のねらいそのものが定まっていない教科が見受けられた。前に挙げた「二十一世紀型能力」は抽象的であるがゆえに、来年度は教師個々が各教科においてももう少し具体的なイメージをもつことができるようする必要がある。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>授業参観する中で、やはり古いタイプの授業が残っていることへのご指摘をいただいた。</p> <p>校内での取り組みや、結果の分析について、学校運営協議会理事の方々のご理解くださり、この結果を継続できるように励ましの言葉をいただいている。</p> <p>前回同様、学校運営協議会企画推進委員（学習）の方々の支援により、日常的に「みらスタ」を行っていることも重要な取り組みの一つである。</p> <p>今後も継続していきたい。</p>	
	評価日 12月7日・2月2日	評価者 検証委員会・学校運営協議会理事会

## （２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲ある社会人として生きていくために、夢をもちながら学ぶ態度の育成</li> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・いじめの根絶と人権感覚を高める教育の実現</li> </ul>

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育において「公共の精神」との関わりを重視する。</li> <li>・E S D，市民性を高めることを教育活動に取り入れる</li> <li>・しなやか道徳研究指定を活かした、道徳教育の充実と発展</li> <li>・人権教育についての研修会の実践</li> <li>・教育相談のあり方研修と実践の充実</li> </ul>		
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域行事に参加していますか」の変容</li> <li>・「他者に貢献する活動を行っていますか」の変容</li> <li>・道徳研究授業協議結果の振り返り</li> <li>・「いじめは絶対にいけないことだと思いますか」の変容</li> <li>・クラスマネジメントシート等の結果推移</li> </ul>		
<p>各種指標結果（1回目）</p> <p>生徒個々に見ると、様々な実態があるが、全体的に日常を見る限りにおいては、礼儀や奉仕についての意識、思いやり等について課題があるとは見受けられないのだが、生徒質問紙等の結果を分析しても、未だ「将来展望」「自己肯定感」や「いじめ・人権」についての意識が改善しているとは言い難い現状がある。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>数値に反して、ポスターセッションや作文等において、自分の意見を他者に向けて発信したり、キャリアにまつわる意見を述べたりすることに抵抗感は見受けられない。</p> <p>道徳教育の充実や人権意識向上のための指導は、事あるごとに教員間で呼びかけながら充実を図ってきた。生徒質問紙などの数値とどのような関連性があるものなのか、一層の分析が必要であると考える。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「しなやか道徳」等の指定も受け、全学級での公開授業や小中連携しての道徳教育の充実に取り組んでいる。これからも評価の仕方も研修しながら継続したいと考えている。</p> <p>また、キャリア教育についても、職場体験で終わることなく、目先の生活ばかりに囚われることなく人生設計を考える授業や場面、体験を設けていきたい。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>従順ではあるが、バイタリティに溢れるような生徒が少ないのではないかと。かつての本校の現状を踏まえると、礼儀正しく、落ち着いて学習できる生徒が増えてきたことは良いことである。これからの時代を生き抜くことのできる生徒を育てるように努力して欲しい。</p>	
	評価日 10月13日	評価者 学校運営協議会理事会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>生徒や保護者のアンケート結果は、昨年までの結果と大きな変化はなく、将来への期待感、人権感覚についての項目では、少し低い傾向がある。</p>		

自己評価	分析（成果と課題） しなやかな道徳の研究指定を利用しながら、道徳の教科化に向けた授業改善も着実に進んできたと考えられる。評価についての試行も二学期から行うことができ、研修を深めることができた。	
	分析を踏まえた取組の改善 小さいじめが未だに起こっている現状から、人権教育については継続して力を入れていきたいと考える。 道徳については、若手を中心に研修が進み、授業力も徐々に向上していると感ぜられる。継続したい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 授業参観や生徒との話を通じてみる限りでは、生徒や保護者アンケートに表れるような低い実態は見受けられないとの言葉をいただいた。 今後の取り組み計画にも理解をいただいた。	
	評価日 12月7日・2月2日	評価者 検証委員会・学校運営協議会理事会

### （３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 ・心身ともに自他を大切にする態度の育成 ・健康・安全教育の推進
具体的な取組 ・生徒間での協議、協働の機会を充実させ、互いの自己肯定感を高める。 ・ポスターセッションなど、発表の機会を増やす。 ・ヘルスウィークにおける自律的な生活チェック。 ・定期的な避難訓練を充実 ・薬物乱用防止、命のガン教育、防煙教室などの実施
（取組結果を検証する）各種指標 ・生徒質問紙「自分には良いところがあると思いますか」 ・「友達の前で自分の意見をはっきりと言えますか」 ・委員会アンケートへの回答 ・避難訓練等防災行事でのチェック項目の結果 ・各講演会の感想文等
各種指標結果（１回目） やはり生徒質問紙の結果では、SNSやインターネットに費やす時間は、全市平均よりも高い数値が表れている。生徒個々を見てみると、基本的な生活習慣が身につけていない生徒もいる現状がある。 また、「自分には良いところがありますか」「他人の話を最後まできくことができますか」等の指標数値も低い現状は継続して存在している。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>健康や非行防止に関わる講座・教室は本年度すでに何時間か行っているが、それらの感想等を見る限りでは、講座内容を素直に聞き入れていることが窺える。防災訓練等も真面目に取り組むことができている。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後まだ非行防止教室や、学校独自の取り組みであるヘルスウィークなども控えている。本校教育の柱の一つであるE S Dの具体的な取り組みとしても、防災・健康教育は重点としての取り組みでもある。そのことを学校全体で確認しながら、今後の取り組みを進めていきたい。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>健全な生活習慣等については、家庭での教育による影響が一番大きいのではないかと考える。地域での教育力が増すように尽力したい。</p> <p>そのためにも地域行事への参加などをもっと呼びかけてほしい。</p>	
	評価日 10月13日	評価者 学校運営委員会理事会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>ヘルスウィークも成功し、生徒への健康・安全教育は順調であったと考える。生徒の参加も積極的なものであった。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>朝食をとらない生徒や夜更かしする生徒の比率は、減少したとはいえないが、啓発活動は年々活発なものになり、取組そのものは順調に進んだ。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>取組が形骸化してしまわないように、学校全体で検討しながら今後とも取り組みを推し進めていきたいと考えている。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>取組について、高い評価をいただいた。</p> <p>特に、保健室がよく機能していることへのお褒めをいただいた。</p>	
	評価日 12月7日・2月2日	評価者 検証委員会・学校運営協議会理事会

#### （４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校・カリキュラムマネジメントの意識化と実践</li> </ul>
--

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任会での教科間連携の実施（横方向のカリキュラムマネジメント）と小中連携による学習の時系列（縦方向のカリキュラムマネジメント）の実践</li> <li>・21世紀型能力との関わりの確認</li> <li>・学校運営協議会活動の充実（評価・学習協力）</li> <li>・PTA活動の充実</li> </ul>		
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート結果「他教科と連携してつきたい力」</li> <li>・学校運営協議会からの意見</li> <li>・カリキュラムマネジメント等研修の実施回数</li> </ul>		
<p>各種指標結果（1回目）</p> <p>公開授業を活用しての研修会では、「21世紀型能力」や新しい時代のカリキュラムマネジメントについての理解は進んだ。実際に他校の先生方と意見を交えながら建設的な意見も多く出てきた。しかし、それを実践しているかどうかの指数は、教師アンケートを見てもまだまだ低いことが見て取れる。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>指導要領総則や各教科解説の公開を踏まえ、今後の本校のあるべき姿（ビジョン）について共有できるように取り組みを行うことはできたが、実践についての具体化はまだまだである。</p> <p>チーム学校としての学校運営協議会やPTA活動などの素地は、ある程度できあがっているので、カリキュラムマネジメントの視点による情報交換の実現が急務の課題である。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>多くのカリマネについての研究方向はあるが、今までのコンテンツベースのベースのカリマネばかりであり、コンピテンシーベースのカリマネについての報告は未だ見受けることができない。ここに視点を当て、本校の研究の柱としていければ良いと考えている。このことについて教員間での賛同は得られているが、具体的な取り組み方について、いち早く協議していきたいと考える。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>その方向で進めてほしい。</p>	
	評価日 10月13日	評価者 学校運営協議会理事会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>特に冬以降、研修の回数も減り、十分な研究を推し進めることができなかった。</p> <p>コンピテンシーについての理解も滞っている。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>コンテンツベースの学力観からなかなか抜け出すことのできない教員もまだまだ存在する。</p> <p>全教科がこの考え方を理解しない限り、コンピテンシーベースのカリキュラムマネジメントの実現は難しい。</p>	

	来年度も積極的に研修を推し進めていきたい。	
	分析を踏まえた取組の改善 前回の評価の繰り返しになるが、資質・能力をより具体的にイメージし、学校全体で理解し合う研究・研修が必要である。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 授業参観においてやはり古いタイプの授業があることへのご指摘をいただいた。 研究の方向性へのご理解はいただけた。 今後も継続してほしいとお言葉をいただいた。	
	評価日 12月7日・2月2日	評価者 検証委員会・学校運営協議会理事会